巡礼の道 665

藤屋 侃士
（下松市幸ケ丘）

紅茶の話、あれこれ
～世界の食文化を楽しむ～

先日「コーヒーの話」を書いた。今は、断然「コーヒー党」が多いが、私は紅茶党である。

紅茶といえば本場はイギリス。イギリスの1人当たりの年間消費量は約2キロ。日本人の消費量は200グラムであるからいかにイギリス人が紅茶好きであるかがわかる。

有名な画家の絵が並ぶロンドンのナショナルギャラリーで長女と3人でアフタヌーンティーを楽しんだ。三段からなるアフタヌーンティーで出される軽食。最上段はサンドイッチ、中段はスコーン、下段は焼菓子とケーキ。この時、お湯が日本の鉄ビンで出て来たので「なぜ?」とびっくりした。

我が家のティー・カップの中にあるイギリスの陶磁器メイカーのロイヤル・アルバート。1896年の創業で、紅茶を最も美味しく飲む究極の形をしたカップを製造している。その形を「モントローズシェイプ」という。

上半分は横に向かって広がっているが、これは紅茶の表面積を広くし、早く冷やして飲めるからだ。下半分は丸く膨らんでおり、この部分の対流で紅茶の温度と旨（うま）みを保てるようになっている。また、受け皿（ソーサー）はふちが高くなっており、紅茶の温度が保てる。このカップで紅茶を飲んでみたが、味の違いはわからない。いつもと同じく紅茶は美味い。

さて、アメリカといえばコーヒー党の強い国だと思っていたが、アイスティーやティーバッグ発祥の地であることは知らなかった。また、日本では紅茶の葉がよくひらく三角（テトラ）ティーバッグを1980年に世界に先駆けて生産を始めた。

便利なティーバッグの紅茶を私は愛飲している。「紅茶の大事典」によると美味しい紅茶をいれるにはコツがあった。ティーバッグに熱湯を注いでからしっかり蒸らすこと、ティーバッグを引き上げる時はスプーンの背で絞ったりせず、静かに引き上げることなどなど。紅茶党と思っていたが、間違いだらけだった。

紅茶、ウーロン茶、緑茶は同じ茶葉から作られる。紅茶は強発酵茶、ウーロン茶は半発酵茶、緑茶は発酵させていないお茶のことを言う。

職場の休憩時間に飲むのは大抵コーヒーだが、人気テレビドラマ「相棒」の主人公、水谷豊は紅茶党。ソーサーとカップを左手で持ち、1メートルぐらいの高さから滝のような勢いで紅茶を注ぐ。この作法は高齢者はマネしない方がいい。紅茶は熱湯で入れるので、高い所から注ぐことにより飲み易い温度になり、空気に触れることで香りが引き立つ。

ウケをねらった、馬鹿らしい演出と笑っていたが、実はそれなりの理由があったのだ。

尚、紅茶の色々な統計を見ると、消費・生産・輸入などに日本の国名はない。日本の紅茶党が今後伸び、仲間が増えるのを期待している。

紅茶好きの皆様、ぜひ我が家に紅茶を飲みにいらっしゃいませ。

ロンドンのナショナルギャラリーのカフェにて

ロイヤルアルバートのティーカップ

紅茶の大事典